

Bチャレ チャレンジ部門 実績報告書

団体名	隣人の日・共創ワークショップ	作成日	3月31日
企画名	隣人の日・共創ワークショップ		
あなたが考える 文京区の課題	<p>年齢・ジェンダー・国籍・ルーツ・障がいの有無や種別に関わらず多様な背景を持つ人たちが参加し文化を通して交流できる場や機会が少ないことを課題だと考える。アート活動に関しては文京区の文化事業には絵画展や書道展があるが、応募には作品の額装や軸装が必要で、規格も厳密に定められている。若手芸術家の創作活動の支援は障がいの有無に関わらないが、応募は18～40歳未満に限定される。また区内障がい者施設における創作作品の展示事業もあるが、施設に所属しない人は対象外である。一般的に、障がい者作品展は障がいのある人の作品だけに限定されている事が多い。美術展に関しては、出展作家同士の交流は職業作家や美術大学生などのアートという1分野内の交流に限られてしまっているように思える。企画がカテゴリー化すればそこに含まれない層が出て、交流もカテゴリー内にとどまりやすい傾向にある。当団体の代表は文京区在住で暮らしている場所で自身の活動を行う事を考えた。当団体は過去に携わった展示や企画等を通し、福祉施設等との関わりを持たない人々が表現を発表したり他者と協働する機会が、施設等に所属する人々と比べて少ない事を実感した。「みる（鑑賞・観覧等）」「する（活動・参加等）」「ささえる（普及・継承・指導等）」「地域の資源を活かしたまちづくり」を文化芸術分野の基本方針とする「文京区アカデミー推進計画」</p> <p>(https://www.city.bunkyo.lg.jp/b014/p004142.html)にあるように、誰もが文化芸術活動を楽しむ機会の創出の一助となれるよう努めたい。ワークショップを行う際にはそれぞれが忖度や遠慮などで個性を消してしまうのではなく、異なるバックグラウンドを持つ人々が分野を越えてそれぞれの個性を活かす形で共同（協働）で作品をつくる事を試み、その成果を展示の形で発表することで、課題解決に向けた活動を行いたい。</p>		
実施期間	2024年11月～2025年2月末 ワークショップ：2025年2月1日、2月8日 成果展：（1）2025年2月23日、24日（2）2025年2月25日、26日	実施場所	千石・春日・小石川・後樂園・根津・湯島・本郷エリア 【ワークショップ会場】文京シビックセンター 地下1階 アトリエ 【成果展会場】（1）不忍通りふれあい館 1F 展示コーナー（2）文京シビックセンター ギャラリーシビック 1B
対象者	文京区及び近隣地域に住む年齢・ジェンダー・国籍・障がいの有無や種別などに関わらず、多様な背景を持ち、他者との交流の場や表現・創作に興味を持つ方々		

参加者の募集方法	<p>【活動プレス掲載実績】 美術展ナビ（読売新聞社） https://artexhibition.jp/topics/news/20250123-AEJ2563895/</p> <p>Instagram、facebookでアカウントを開設、投稿やDM等で周知。チラシを作成し、フミコム、文京シビックセンター（地下1F 文京アカデミー）、不忍通りふれあい館へ配架依頼。区内図書館に配架依頼、郵送。近隣カフェに配架依頼。ヒアリング実施団体への呼びかけと周知協力依頼。</p>		
実施した事業内容	<p>2024/11/13、フミコム様とヒアリング方法及び依頼団体についてご相談。 11/30、活動見本市に参加し、複数団体にヒアリングのご相談。</p> <p><ヒアリング実施> 12/7、文京区精神保健福祉家族会。12/11、ぶんだねこいしか和及びこどもソテリア小石川。12/20、バリアフリーサークル「歩み」。12/21、目白台の家再生プロジェクト。1/14、東京大学医学部附属病院 リハビリテーション部 精神科デイホスピタル（DH）。1/17、韓国からの留学生才氏、特定非営利活動法人 Woods、韓国からの留学生イ氏。1/27、社会福祉法人 本郷の森（銀杏企画）。</p> <p><広報宣伝活動> 社会福祉法人 本郷の森（銀杏企画）</p> <p><ワークショップ実施> 2/1に第1回目開催、参加者13名、見学者5名。2/8に第2回目開催、参加者12名。 Bチャレの企画ではないものの、2/16「ゼロからボラ活！～一緒にさがそうあなたの一歩～」に出展しワークショップを開催。参加者20名。</p> <p><成果展>（1）2025年2月23日(日)13:00-21:00、2月24日(月・祝)10:00-18:00 会場：不忍通りふれあい館 1F 展示コーナー （2）2025年 2月25日(火)13:00-21:00、2月26日(水)10:00-18:00 会場：ギャラリーシビック 1B（文京シビックセンター内） 延べ 来場者 253人 内訳 不忍会場 102人、シビック会場151人</p>		
事業実施に当たって実際に協力のあった団体・個人	<p>文京区精神保健福祉家族会／ぶんだねこいしか和、こどもソテリア小石川／バリアフリーサークル「歩み」／目白台の家再生プロジェクト／東京大学医学部附属病院 リハビリテーション部 精神科デイホスピタル（DH）／O氏／特定非営利活動法人 Woods／I氏／社会福祉法人 本郷の森（銀杏企画）／Y・I氏／W・F氏／T・T氏／M氏／A・T氏／有限会社 安久工機／サークル・六点会</p>		
収入内訳 <<結果>>	品目	金額	備考 （件数、単価などを詳しく記載）
	Bチャレ助成金	199,000	
	団体持ち出し費用	371	

支出内訳 «結果»	品目	金額	備考 (件数、単価などを詳しく記載)
	賃借料	44,400	・アトリエ 賃借 AM2,800円×2回 =5,600円 ・ふれあい館 賃借 8,600円×2日間= 17,200円 ・シビック展示室1B 賃借 10,800×2 日間=21,600円
	印刷製本費	33,760	A4チラシ フルカラー1,800部、デザイ ン費含む(10,330円) / A1パネル4枚 + 立て看板用プリント印刷加工 (23,430円)
	消耗品費	100,700	【ワークショップ用(計54,779円)】 A4画用紙300枚、覆い紙のプリント加 工&アンケート用紙等コピーの計400 枚、紙用マッキー10セット、クレヨン 12セット、水彩絵の具8セット、水彩 筆・筆洗、ゆびえのぐ8色、モコモコ ペン15本、スタンプ13個、カッティン グシール、鉛筆2ダース、消しゴム18 個、テープ類、養生ビニール、消毒用 アルコール4組、ティッシュ 【展示用(計45,921円)】テグス、 キャプション用トレーシングペー パー、ひつつき虫、結束バンド、クラ フト紙、ダブルクリップ、A4画用紙、 ワイヤーロープ、ボードフック、接着 剤、吊り具用木材、白ペンキ、丸カン
	旅費交通費	13,290	会場リサーチ、ヒアリング、打合せ・ 作業、配架相談、搬入・搬出・展示案 内
	通信費	925	チラシ郵送費185円×5カ所
	会議費	2,820	310mlミネラルウォーター 30名分
	保険料	3,476	行事保険 a行事 当日型 33円×40名 分(参加者・スタッフ・ボランティア 20名×2日間) / 350円×5名分(ボラ ンティア保険Aプラン)
助成交付額/支出総額	199,000/199,371		

<p>1.当初想定していた成果に対して、達成度合いは10点満点中、何点ですか。その理由も含めて記載してください</p> <p>ワークショップに関しましては、7点</p> <p>減点理由は、参加者の障害の種別に関して聴覚障害のある方々に関して特に周知や準備が十分にできなかったことが挙げられます。その他は5歳から70歳までの人が参加し視覚障害や精神障害のある方々を含めて様々な背景を持つ多様な方々が交流することができたと思います。</p> <p>成果展に関しては、10点です。展示手法の工夫ができたことと、偶然通りがかった方々など多くの来場者が訪れ、交流ができたこと、参加者が何度も見に来てくださり、ワークショップのOB,OGのように再会し、初めて来られた来場者の方々と交えて作品を鑑賞し意見を言い合って盛り上がったことです。創作から展示、鑑賞までの時間の経過で交流できることで参加者とスタッフのチーム感が生まれました。</p>
<p>2.企画を行なってみて気付いたこと、改めて確認できたことを記入してください(箇条書でも可)</p> <ul style="list-style-type: none">・現状では、地域生活、経済生活の中で障害の種別を超えた交流が少ないこと。・聴覚障害のある参加者への準備には手話通訳の方々の通訳謝礼が必要なこと。・創作（アトリエ）から展示、鑑賞（展覧会場）までと時間と空間の域が共に広がるほど人間の交流や関係性の層や密度も比例することがわかった。参加者や来場者が交流する上で重要な「場」の創出には時間と空間の厚みが必要だと痛感した。・参加者からは「次はいつ」、「普段はどこで活動している」、「また参加したい」、「普段から絵の相談にのってほしい」と聞かれ、ワークショップや展示のための常設の場所があれば交流の場がより容易になること。・公共会場の使用に時間制限があり、ワークショップの時間はもう少し長く取ればより交流の時間が深まったこと。・企画からワークショップ、展覧会の実施までの時間がタイトであったこと。・ワークショップの告知に関して、実際に施設の利用者の方々に直接ご説明する機会をいただいた場合は、より効果的であったこと。・周知に関してチラシやSNSだけではあまり効果がないこと。・成果展では、偶然通りがかった来場者も、ワークショップ参加者も、その知り合いの方々も皆、作品を鑑賞しながら、自然と対話が生まれたこと。・ワークショップだけではなく成果展での「鑑賞」も重要な年齢・ジェンダー・国籍・ルーツ・障がいの有無や種別に関わらず多様な背景を持つ人たちが参加し文化を通して交流できる場や機会となったこと。・地域の中で、普段すれ違っていたかもしれない人同士が、ワークショップや展覧会で改めて出会い、交流を深めたというのも見受けられた。展覧会場でたまたま居合わせた高齢の方同士が絵画鑑賞で出会い、趣味の話になり、同じビルに通っていたなど。・ワークショップも展覧会場もアクセスとバリア・フリーの両方を叶える会場でなければならぬことを痛感した。

企画の成果

3.本企画の開始時に設定した課題は、実際に“文京区の課題”だったことが確認できましたか。本企画を通してどのように検証を行ったかを記載してください（分析や考察など）

本企画の当初に設定した課題は、実際の文京区の課題にあたりと確認しました。

実際にワークショップや成果展での参加者や来場者との対話やアンケートの感想から認識しました。

ワークショップの参加者では、5歳のお子さんのご両親からは「子供が多様な背景を持つ人々に出会って共に何かをするこのような機会がもっとあれば」というご意見や、精神障害のある参加者からは、「勤務先や作業所以外で様々な人々と交流できる機会がもっとあれば」、「最初は怖い部分もあったが、リレー絵画に参加しているうちに楽しくて不安な気持ちが吹っ飛んだ」という意見を伺いました。参加者の中には1回目で体験して、2回目も参加するというリピーターの方も数人いらっしゃいました。創作活動を通すと、「知らず知らずのうちに他の参加者と話したり、交流している」という意見も伺いました。

障害の種別が違えば、出会う機会が少ないということも確認いたしました。文京区在勤の視覚障害者と精神障害の参加者は今回の交流で初めて出会い、これまで知らなかった互いの障害の属性を発見すると同時に、互いに助け合って参加してくださいました。障害の有無に関わらず、それぞれが得意なことや不得意なことを理解し助け合うことも、小さな会合でしたが見受けられ、このような機会はそれぞれにとって学びがあると思いました。

「リレー絵画」という手法が、じわじわと交流することを可能にすると確認しました。それは、年齢・ジェンダー・国籍・ルーツ・障がいの有無や種別に関わらず多様な背景を持つ方々が「上手・下手」に関わらず無理なく参加できる点にあります。4人一組のグループが合計8枚描くのですが、8枚目ができた頃には互いをより近く感じていました。描かれた絵が「一体」になると自然と自分達も協働した連帯感のようなものが生まれました。

成果展では、ワークショップに参加しなかった来場者たちにも「作品」鑑賞を楽しんでいただきました。シビックセンターの上映会や会合に来ていた人々も「もし、このようなワークショップがあれば参加したかった」と仰っていただけたり、「見ているだけでも楽しい」と親子連れや高齢者の方々に楽しんでいただけました。成果展の会場では、参加者と偶然通りかかった来場者が共に「作品」を鑑賞したり、参加者が来場者の方に説明したり、見知らぬ同志の対話も生まれました。

従来の展示会の雰囲気とは違い、ざっくばらんに対話が飛び交う場になりました。シビックセンターの成果展に来場された文京区在住の90才の女性は、「私たちは何とか健康を保っている独居高齢者です。国や自治体からは病気にならないと援助は得られないので大変です。健康ではありますが80代、90代で健康を維持するだけでも本当に大変な毎日です。毎日を必死に生きています。このように作品を鑑賞したり、若い人たちと交流できる機会をいただけてのは本当に楽しい」と喜んでいただきました。

また、ふらっと立ち寄ってくださった70代の男性は、30分間「リレー絵画」の展示の前に立ち尽くしておられました。しばらく経って、話しかけてみると、「いつまでも見ていただけるくらい楽しい」という言葉をいただきました。

ワークショップと展覧会の両方では、この度画材として購入させていただいた画材メーカーの工場の製造部門、CSR部門、営業販促部門の方々にご見学いただきました。視覚障害の方のための膨らむペンや画材などの開発があまりなされていないこと、絵の具の乾きの問題などを共に検証いたしました。今後、私たちの団体に画材の提供などの支援や情報交換など協力関係を築くことになりました。

4. 本企画を経て、今後の団体の活動の展望についてご記入ください

今後も、年齢・ジェンダー・国籍・ルーツ・障がいの有無や種別に関わらず多様な背景を持つ方々が交流できる手段として「リレー絵画」とその成果展を続けたいと思っています。というのも、「絵画」という敷居が「リレー絵画」では思ったほど高くないからです。「リレー絵画」には上手下手が一切関与しません。知らず知らずのうちの交流には適した手法だと思いました。また、展覧会もワークショップ参加者に関わらず、ふらっと立ち寄った来場者らと「鑑賞」を通した交流も生まれ、交流の場となったからです。

この度の展覧会を見にきてくださった文京区立本郷図書館の館長様から、今回の「リレー絵画」を2025年4月29日から5月25日まで展示して下さいますかとお声がけいただきました。さらに地域の方々に楽しんでいただける機会をいただき光栄に思っています。

今後は図書館などの協力を得て、ワークショップや成果展、言葉遊びのワークショップも行いたいです。また、視覚障害の方々への画集や図録集の音訳も挑戦したいことのひとつです。また、誰もが参加できる「音楽」の場も実現したいです。音楽では、楽器を使わず、それぞれの声を使ってオーケストラの楽曲を作る、演奏できればと思います。

※追加別添1：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ

※追加別添2：この事業の様子が分かる公開可能な写真データ（10枚以内）

※追加別添3：この事業にかかった費用の根拠資料の原本（領収書や支払い明細書など）

【提出先】

E-mail : fumikomu@bunsyakyo.or.jp

TEL : 03-3812-3044（担当：近藤）